



岐阜陸上競技協会広報

第2号

平成28年5月8日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイムA102
TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491
E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp

「岐阜陸協 27年度シーズンを終えて」

会長 田口 利正

岐阜陸上競技協会の皆様におかれては多忙な1年間をご苦労様でした。岐阜陸協は岐阜国体で見事な競技運営がなされ、その実績を各団体に高く評価されました。(競技面でも天皇杯を獲得)それ以来、毎年全国大会の運営依頼が増え、特に27年度は全国実業団選手権大会、全日本マスターズ大会、西日本学生大会等数多くを大会運営し、その全てが万全で高評価を受けました。大会の運営にあられた岐阜陸協の方々に感謝申し上げます。尚、会長自身の反省点は「ボランティアの長は名誉職ではない、自ら率先垂範行動すべし」の持論を守れなかったことです。体調を崩して持論を守れず皆様に迷惑を掛けました。又、選手の士気にも悪影響を与えて会長として心残りであり非常に残念でした。

28年7月には岐阜陸上競技70周年を迎えます。岐阜陸協70周年にあたっては、お祝いではなく、新しいスタートと認識し、全役員が過去にとらわれる事無く、良い悪いを十分に判断し勇気をもって継続と改革を行い、岐阜陸上競技協회를更に発展させていきましょう。



「2015年度の印象 ～全国大会運営をおえて～」

専務理事 黄倉 寿雄

2015年度は、西日本学生対校選手権大会 全日本実業団対抗選手権大会 全日本マスターズ選手権大会と全国規模の大会を本県で開催しました。全日本実業団連盟をはじめ各連盟、中部実業団連合、岐阜県清流の国づくりスポーツ課、岐阜県体育協会をはじめ関係者と大会開催に向けての調整会議に追われる毎日でしたが、皆様方のご支援をもって大過なく大会を終了することができました。心より感謝申し上げます。また、大会の運営、審判に参加いただきました岐阜陸協全審判員のご尽力には深く感謝します。

2015年度は全国から日本を代表する選手を迎えるということで長良川競技場の整備が大きな課題でした。審判マニュアルの改訂作業に始まり8月には1種公認競技場の更新検定。それに伴う走路、ピットのクリーニング及び補修、競技用具の整備をすすめました。さらに、全日本実業団対抗選手権は日本記録誕生も期待され、その際に必要な機器の投入が必要となり結果的にぎふ清流国体を上回る機器を準備することとなりました。具体的には、本県陸協で初めて使用する不正スタート発見装置、電動棒高支柱、さらにはトラック・フィールド電光掲示装置の充実、投てき器具の補修更新、大型スクリーンへの競技映像供給、選手村の設定、会場セキュリティなど大会主催者からの要望をふまえながら準備計画をすすめました。その甲斐あって、全日本実業団対抗選手権大会において選手の一投、一跳、ゴールタイマーの記録に一瞬湧き上がる歓声やどよめき。開催できてよかったと感じた瞬間でした。余談ですが、不正スタート発見装置の利用については初めてということもあり運用に不安もありましたが、大会3日間を通して不正・不適切スタート0(ゼロ)という結果となり「不正スタート発見装置は必要なかった」と関係者間で冗談が出るほどでした。選手の競技意識の高さを感じる出来事でした。

西日本学生対校選手権大会では、溢れる若さを！ 全日本実業団対抗選手権大会では、迫力ある躍動を！ 全日本マスターズ選手権大会では、永遠の若さを！とそれぞれに雰囲気のある大会でした。来県された大会関係者、選手・監督の多くから長良川競技場のコンパクト感がよいといわれます。補助競技場と主競技場が近く招集やコンディショニングに便利なのが理由です。さらに、審判員の対応が優しく丁寧なことも長良川競技場の良い印象を後押ししているようです。全審判員の努力の証であると思います。

評価の高い長良川競技場ですが、競技運営側からみなおしてみると、大会規模が大きくなればなるほど大会役員、競技役員をはじめ大会スタッフを効率よく収納できる部屋数の不足、競技備品機器の老朽化、映像処理機材の不足、狭い雨天練習場など課題が挙げられます。ぎふ清流国体の折に8レーンから9レーンに改装、補助競技場も拡張したのですが機能面・安全面で時代観を感じる部分が増えてきています。この背景には設計構想が25年前であることや長良川競技場での全国規模大会の開催が少なく計画的整備が遅れているまたは、されていないことが理由に考えられます。全国規模大会を長良川競技場で開催することにより全国レベル選手の競技を目にすることは陸上競技ファンの増大のみならず、普及効果、競技力の向上に大きな成果があると期待されるところです。今後も競技運営面でのIT化は進歩を続けたいと思います。正確な審判、迅速な記録処理、選手観衆を一つにする記録表示や大型スクリーンの活用などに対応できる競技場へと長良川競技場を整備することは本県陸上競技界の発展に大きな影響力をもつものだと考えます。もちろんその機材、機器の機能を十分に駆使できる審判団及び競技役員能力向上も重要な課題になることは言うまでもありません。

最後になりましたが、西日本学生対校選手権大会 全日本実業団対抗選手権大会 全日本マスターズ選手権大会をはじめ2015年度の大会運営にあたりお世話になりました関係皆様に感謝申し上げます。2016年にのぞみたいと思います。

トピックス



「マスタース陸上競技大会の感激と感謝」

岐阜マスタース陸上競技連盟会長

小池 良司

「他県で開催できる大会を、我が岐阜県でできない筈はない。2年前に第67回国民体育大会を成功裡に終えたすばらしい競技運営スタッフと競技場がそろっている岐阜県で。」その思いで第36回全日本マスタース陸上競技選手権大会の開催を引き受けることにしたのは、2014年の春、大会1年半前のことでした。月に1～2回の打ち合わせを行って各担当の進捗状況をチェックしながら、大会6ヶ月前からは毎週のように会議を重ね、盤石を期するよう取り組みました。

その間、第35回大会の開催地、岩手県北上市へ岐阜陸上競技協会の方々とは15名からなる視察団を結成し各担当者の目で大会を視察する機会を持ちました。

月日の中いくつかのトラブルもありました。長良川競技場使用申請がおくれ、大会日に他のイベントが先に受け付けられており、調整のために三重県伊勢市まで出向いて権利を譲っていただきました。さらに2015年4月になって「長良川競技場の改修工事のため使用場所に制限あり」との当局からのお達しに驚嘆し、スムーズな大会運営を危惧したこともありました。その際に岐阜陸協のご尽力で、大会後の改修へと工事期間を変更していただきました。

そして、2015年10月30日～11月1日、第36回全日本マスタース陸上競技選手権大会の開催の日を迎えました。参加選手過去最高の2196名のエントリーをいただき、3日間とも晴天に恵まれる中、岐阜陸協の運営によって、大会はタイムテーブル通りスムーズに進行されました。

日本マスタース陸上競技連合を始め、全国の選手の皆様から、「運営と接待に対する賞賛の言葉を多くいただき感謝一入」岐阜陸上競技協会よりのご指導とご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げ、御礼の言葉といたします。



岐阜陸上競技協会70周年記念事業報告

*第1回実行委員会 平成28年1月23日 於:長良川競技場

・式典、祝賀会について

平成28年7月2日(土)18時～20時30分

於:岐阜都ホテル ボールルーム

- 表彰式…歴代理事長、功労者(秩父宮章受賞者)、優秀選手(オリンピック・世界選手権出場者、日本選手権者)、高額協賛企業、岐阜国体協力企業。

- 祝賀会…着席ビュッフェスタイル

参加者の予定…名誉会長、名誉副会長、会長、副会長、顧問、参与、専務、常務、理事、評議員、表彰者、招待者(県代表・県体協代表・優秀選手・東海各陸協)、地区代表、各委員会副委員長、報道関係など150名

・記念品について

ピンバッジ(金色) 1000個作成(当日配布用+販売用)

デザインは岐阜陸協旗をモデルにする。

・記念パンフレットについて

A4版カラー 12ページ

内容…60～70周年の歩み(2006年度～2015年度)

部数…400部(当日用、各都道府県郵送用、協賛企業用、関係各所用、保存用)

・リーフレットについて

A4版(縦二つ折り)160部

参加者名、式典・祝賀会次第など

・予算

式典・祝賀会…2,000,000円

ピンバッジ ……425,000円

上記の内容を第4回理事会で協議・検討した。

(岐阜陸上競技協会創立70周年記念準備委員会 溝際 佳典)

専門委員会報告

総務委員会

平成27年度は5回の理事会・1回の評議員会を開催、栄章審査会で受章者の決定・表彰、要覧委員会で平成28年度競技会要覧を作成しました。皆様のご理解ご協力のおかげで1年を終えることができました。心より感謝申し上げます。

28年度から小学4年生以上の岐阜陸協登録が開始され、小学生選手権が新たな大会として開催されます。課題を1つ1つ解決しつつより良い方向へ進めていきたいと考えております。ご意見ご提案がありましたら総務委員長までお願いします。

平成27年度 栄章受章者 紹介

栄章委員会(敬称略・順不同)

○公益財団法人日本陸上競技連盟表彰

秩 父 宮 章	黄倉 寿雄(岐阜経済大学職員)	平成28年岩手国体にて表彰
高校優秀指導者章	藤村 純子(長良高校教員)	平成28年岩手国体にて表彰
中学優秀指導者章	久川 直之(境川中学教員)	平成28年岩手国体にて表彰
高校優秀選手章	河村 一輝(大垣日大高)	平成28年岐阜県選手権にて表彰
中学優秀選手章	安達 楓恋(美濃加茂東中)	平成28年岐阜県選手権にて表彰

○東海陸協功労章

馬場 保(大垣陸友クラブ)
小森 博昭(岐阜陸協)
寺町 義昭(関体協)

○安藤百福記念章

浦野 美穂(大垣陸友クラブ)	全国小学生陸上競技交流大会にて表彰
----------------	-------------------

○一般財団法人岐阜陸上競技協会 栄章

功 勞 章	内田 匡俊(岐阜教員クラブ岐阜)	加藤 英樹(岐阜教員クラブ岐阜)
全日本実業団実施記念	辻 治彦(岐阜アスリート)	筒井 学(らいちょうT&F)
	梅本美奈子(大垣陸友クラブ)	渡辺美枝子(大垣陸友クラブ)
	渡邊喜久子(大垣陸友クラブ)	安藤 功二(多治見市陸協)
	小木曾謹也(瑞浪市陸協)	北山 武(中津川陸協)
	澤田 和彦(土岐走友)	田内 功(岐阜教員クラブ東濃)
	松坂 勝美(高山市陸協)	家垣 政徳(高山市陸協)

勲 功 章	河村 一輝(大垣日大高3)	
小 倉 章	赤松 諒一(岐阜大2)	五藤 怜奈(中部学院大2)
加 藤 章	岩船 陽一(サンメッセ)	山元 隼(中京大クラブ)
	羽實 壮里(原岐阜商高3)	青木沙弥佳(東邦銀行)
	桐山 智衣(モンテローザ)	武川 美香(スズキ浜松AC)
	杉山世梨奈(原岐阜商高3)	

田 口 章	坂 本 中/古山日向(3)	西尾颯馬(3)
		塩崎絢世(3)
		長島 光(3)
	大垣東中/中迫佳穂子(1)	浦野奈央(3)
	中迫志穂子(3)	加藤志歩(3)

記 念 章	河村 一輝(大垣日大高3)	森澤 翔尉(坂本中2)
	安達 楓恋(美濃加茂東中2)	成原 沙羅(日枝中3)
	井戸アビゲイル風果(美濃加茂西中2)	

新 記 録 章	齋藤 文孝(下呂特別支援教)	田中 透(チームミズノ)
県選手権にて表彰	相澤 翔(SELECT)	五藤 怜奈(中部学院大2)
	済 美 高/上梨ライム(3)	加藤未夢(2)
	堀井勇菜(2)	奥田真夕(3)

3月5日(土)に岐阜陸協栄章授章式がスポーツプラザ大会議室にて行われました。



(委員長 藤村 純子)

審判委員会

1.はじめに

2015年度も4月から毎週のように、県内各競技場にて競技会・記録会がありましたが、どの競技会も大きなトラブルもなく無事開催することができました。ありがとうございました。

審判委員会は、競技会の役員を編成し、競技会・記録会の審判員として競技審判の依頼を多くの方にしてきました。毎週のように審判依頼はがきが届き、年間30日以上参加してくださる方もみえ、競技審判員として支えていただき、ありがとうございます。また、2015年は9月末に全日本実業団対抗陸上競技大会、10月末には全日本マスターズ競技大会という大きな大会を続けて開催しました。ともに金曜日からの3日間でしたが、大変多くの方に参加いただくことができました。岐阜県審判員の高い見識と技術で、トラブルもなく無事開催することができました。実業団連合やマスターズ協会から高い評価を受けることができました。

2.岐阜県審判員ってすごい!

岐阜陸上競技協会としては、2015年12月31日現在、603名(男性513名、女性90名)の方が公認審判員として活躍してくださっています。12月19日に行われたB級公認審判員資格取得講習会には学生の方を中心に30名以上の方に参加していただくことができました。ぎふ清流国体以降審判員の減少が心配される中、大幅な減少をすることなく維持できていることは大変うれしいことです。

競技会の朝には、どの部署も主任や班長の方から、審判をする上での注意事項やルール確認があり、公平公正な審判ができるように確認されています。また、どのように競技を見るのか、どのような違反が起こりやすいのか、どこに位置すれば見やすいのかなども伝えられ、ベテランの方の技術を若手に受け継いでいくことができます。当たり前のことかも知れませんが、この当たり前のことができている岐阜陸協は素晴らしいと思います。こうしたつながりが、全日本実業団対抗陸上大会や全日本マスターズ大会などの大きな大会を開催することになって、各団体や他県の陸協から高い評価を受けることができる要因だと思います。

高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンでは、2015年を含め5回開催してきました。県外各地のマラソン大会や市民参加型のマラソン大会を参考に始めましたが、岐阜県の大会としての形を作ることができてきたかなと思っています。関門などの道路競技特有の役員配置、給水・配給物対応、ボランティア活動の方との連携などまだ完璧ではないですが、競技者(ランナー)にとって、走りやすいスムーズな運営ができつつあります。これも岐阜陸協審判員の方の「よい大会にしたい。」という気持ちのおかげです。ありがとうございます。

3.2016年度に向けて

2016年度は道路競技を除き全日本レベルの大会は岐阜では予定されていません。しかし、6月に東海高校総体、11月に東海高校駅伝が予定されています。この大会だけでなく、どの大会も競技者は、精一杯競技に向かってきます。私たちは、競技者の頑張りに応える審判員でありたいと思います。

そのために、岐阜陸協審判員としては、審判技術を更に向上させること、ベテランの技術を若手に引き継ぐこと、審判数を増やしていくなどを考えていきたいです。

また、2016年度から小学生競技者の登録が始まります。少年団コーチをはじめ、多くの小学生の指導者の方も審判員の仲間になっていただき、更に岐阜陸協審判員を充実させていきたいです。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

平成27年度は岐阜陸協が主催する21の競技会運営と、その他13の競技会において運営協力を行いました。

主催競技会では21,750人・70チームの参加者（26年度24競技会22,984人・73チーム）を数え、競技力向上・記録更新に向けた選手を運営面からバックアップしました。ほとんどの競技会では円滑に競技運営できましたが、第36回春季陸上競技大会では800mのレース時間を読み違えたため競技時間が大幅に遅れてしまい、選手および競技役員の皆様に大変ご迷惑をおかけしました。今回のような失敗を繰り返さないように、反省点を見直し、今後の競技日程作成等に生かしていきたいと思います。

運営協力した競技会では、6月5日～7日西日本学生陸上競技対校選手権大会、9月25日～27日全日本実業団対抗陸上競技選手権大会、10月30日～11月1日全日本マスターズ陸上競技選手権大会の3つが開催規模も大きく主管団体としての実力が試される場面でした。小さなトラブルは

ありましたが、概ね円滑な運営ができ、改めて岐阜国体で培った岐阜陸協の運営力の高さを関係諸団体および参加選手に示せたのではないかと思います。

新たな試みとしては平成28年度からスタートする小学生登録に向けて、強化・普及 100m・フィールド記録会と強化記録会において50mと100mの小学生種目を設定し、広く県内小学生の参加を募りました。1回目となった7月25日には147名、2回目は運動会シーズンと重なったため61名の参加者でしたが、参加小学生には長良川競技場での競技を楽しんでもらうことができました。今後は普及委員会・強化委員会と連携をとり、タレント発掘・育成の場としても発展させていきたいと考えています。

28年度も皆様からのご意見を参考にしながら、競技力向上はもちろんのこと会員の皆様に陸上競技を「楽しんでもらえること」を目標に、よりよい競技会運営に取り組んでいきたいと思います。

（委員長 日下部 光）

〈平成27年度 競技委員会事業報告〉

No.	期 日	場 所	事 業 名	規模(参加者数)					事 業 内 容
				一般	大学	高校	中学	小学	
1	4月 4日(土)	長良川	平成27年度 強化・普及 100m・フィールド記録会①	11	25	492	249		昨年度までのフィールド記録会を発展させ、100mを加えてメイン競技場にて実施した。
2	4月11日(土)	星ヶ台	岐阜県春季陸上競技記録会 兼第70回和歌山国体選手選考会①	16	6	537	601		トラックは今年度最初の記録会を実施した。中・長距離種目(1500m,3000m,5000m)も同時におこなった。できるだけ多くの選手が参加できるよう2会場で開催した。 中学男子6種目、女子6種目、一般高校男子8種目、女子8種目で実施した。
		長良川		39	6	664	877		
3	4月18日(土)	長良川	第8回澤田文吉記念棒高跳競技会 第36回岐阜県春季陸上競技大会 兼第70回和歌山国体選手選考会②	22	62	675	596		澤田杯棒高跳競技会を中心に、中学男子4種目、女4種一般高校男子7種目、女子6種目の他男子110mJH,女子100mYHを実施した。
4	4月26日(日)	長良川	第43回ぎふスポーツカーニバル	21	62	326	1105	387	小学生男女4種目、中学男子5種目、女子5種目、一般高校男女リレー2種目で実施した。
※	5月 9日(土) 5月10日(日)	長良川	中部実業団対抗陸上						
※	5月17日(日)	長良川	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン						
5	5月30日(土) 5月31日(日)	浅 中	第44回岐阜県中学生学年別陸上競技大会 兼第42回全日本中学校陸上競技選手権大会予選会(四種競技)					2439	1年男女各4種目、2年男女各2種目、3年男女各2種目、2・3年男子種11目、女子7種目(四種競技を含む)、共通男女リレーで実施した。
※	5月31日(日)	長良川	岐阜県障がい者大会						
※	6月 5日(金) 6月 6日(土) 6月 7日(日)	長良川	第68回西日本学生陸上競技対校選手権大会						
※	6月14日(日)	星ヶ台	岐阜県マスターズ陸上						
※	6月27日(土) 6月28日(日)	中 山	東海高専陸上						
6	6月27日(土) 7月 4日(土) 7月 5日(日)	長良川	第80回記念岐阜県陸上競技選手権大会 兼第58回東海陸上競技選手権大会予選会 兼第70回和歌山国体選手選考会③	109	235	918	135	100	東海選手権予選及び国体選考を兼ねて男子20種目、女子19種目とリレー種目(小学生リレーは各地区より招待)国体選考少年B種目3種目も実施。定通制高校総体を同時開催した。
7	7月11日(土) 7月12日(日)	長良川	第61回全日本中学校通信陸上競技岐阜県大会 兼第42回全日本中学校陸上競技選手権大会予選会 兼第70回和歌山国体選手選考会④					2100	全国大会出場標準記録突破を目指して、男子16種目、女子12種目で実施した。
8	7月19日(日)	浅 中	第31回全国小学生陸上競技交流大会岐阜県予選会 第33回岐阜県陸上スポーツ少年団・小学生交歓陸上競技大会 兼第18回全国小学生クロスカントリーリレー大会選手選考会					1151	全国大会岐阜県代表を目指して男女7種目で実施した。 スポーツ少年団交歓陸上も併せて実施した。
9	7月25日(土)	長良川	平成27年度強化・普及 100m・フィールド記録会② 平成27年度小学生50m・100m記録会	85	30	505	172	147	今年度2回目の100m・フィールド記録会を実施。 あわせて、初の小学生記録会として50mと100mを実施した。
10	8月 8日(土)	中 池	岐阜陸協強化記録会① 兼第70回和歌山国体選手選考会⑤	25	15	676	12		和歌山国体の最終選考会をかねて、男子18種目、女子15種目で実施した。
11	9月 5日(土)	中 池	第19回岐阜県ジュニア陸上競技大会					1565	ジュニアオリンピックへの選手選考を含み各学年と共通の4種別男女各15種目を実施した。
12	9月 6日(日)	中津川	第39回岐阜県秋季陸上競技大会	35	11	402	111		例年通り中津川で男子14種目、女子13種目を実施した。
13	9月19日(土)	長良川	岐阜陸協強化記録会② 平成27年度小学生50m・100m記録会② 岐阜陸協長距離記録会①	28	19	176	138	61	強化記録会は国体選手壮行会をかねて、男子13種目、女子9種目で実施。 同時に今年度2回目となる小学生記録会を実施した。 夕方からは男女各1500m,3000m,5000mの長距離記録会を実施した。
※	9月20日(日)	中 池	県民スポーツ大会						
※	9月25日(金) 9月26日(土) 9月27日(日)	長良川	第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会						
14	10月 3日(土)	長良川	第45回岐阜県中学生新人陸上競技大会					1661	1年,2年男子各5種目、1年,2年女子各5種目、共通男女各4種目(リレー含む)で実施した。
※	10月 4日(日)	長良川	特別支援学校 チャレンジ陸上						
※	10月10日(土) 10月11日(日)	長良川	第42回東海学生陸上競技秋季選手権大会						
※	10月12日(月)	星ヶ台	中部実業団選手権 多治見フェスティバル						
15	10月18日(日)	県庁～羽島	第7回ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会	24チーム OP1チーム					第7回都市対抗駅伝として、岐阜県庁～羽島文化センター折り返し2往復で実施した。 羽島市内区間にてコースの変更があった。
※	10月24日(土) 10月25日(日)	長良川	第18回東海高等学校新人陸上競技選手権大会						
※	10月30日(金) 10月31日(土) 11月 1日(日)	長良川	全日本マスターズ陸上						

No.	期 日	場 所	事 業 名	規模(参加者数)				事 業 内 容	
				一般	大学	高校	中学		小学
16	11月 3日(火)	長良川	第21回県ジュニア地区対抗陸上競技大会				479	244	各地区(岐阜・西濃・東濃・美濃・可茂・飛騨)の代表選手によって小学5・6年16種目、中学1・2年29種目で実施した。
17	11月15日(日)	中津川～多治見	岐阜県駅伝選手権 中山道東濃駅伝競走大会	—A11チーム— —B8チーム		男5チーム 女5チーム	男9チーム 女7チーム		第3回岐阜県駅伝競走大会を実施
18	12月 6日(日)	長良川	岐阜陸協長距離記録会 兼全国都道府県対抗駅伝選考会	22	2	247	174		長距離記録会(男子3種目、女子3種目)同時に男女中学生の全国都道府県駅伝の代表を決定する最終選考会を実施した。
19	12月19日(土)	長良川	第66回月例長距離記録会(第一次)	33	2	222	30		男女各3000m,5000mの2種目を一次大会として実施。
20	1月23日(土)	長良川	第66回月例長距離記録会(第二次)	44	37	190	124		男女各3000m,5000mの2種目を二次大会として実施。

※印は共催・運営協力等



高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン



強化委員会

今年度より、委員長、スタッフも代わり、新しいスタートをきりました。選手たちは十分に頑張り、チーム岐阜意識を大切にして取り組むことができたように感じます。しかし準備の段階が少なく、先手をうった指導で進めることができなかったことに責任を感じます。選手のランキングからいっても力がありました。しかし結果として力を出し切ることができませんでした。その原因を明らかにして、方法を変えねば岩手でもまた同じ結果をむかえてしまうことになるように感じます。

まずは今回結果を残せた選手。成年選手を中心に今回の国体に対しての思い入れが強く、「何としても結果を」という強い意志のもとに、時間をかけて取り組みました。やはり動機付けがされ、優勝、入賞という目標が設定されていたからこそ、この結果に結びついたように感じます。一方で反省せねばならないのは、自分の力を出し切れずにあっけなく終わってしまった選手を出してしまったことです。指導の段階で動機付けが十分にされていないために、イメージもつかないまま国体をむかえてしまったようにも感じます。

動機づけを意図的に行い、早い段階で準備に取りかかる必要性があるように感じます。そのために具体的な数値(優勝記録、入賞記録など)を選手にインプットさせ、目標設定を行う。その目標を達成させるために何が必要であるのかを、具体的にあげる。また中間目標、絶対達成できる目標を決め、期日を設定させる。それを心の部分、体の部分、技の部分を明確にわけ、整理をしながら取り組ませる。1ヶ月スパンの課題のクリアをさせていく。それを確認できるのが、合宿の時や練習会の時になります。また各校の顧問にも理解を得て、確認してもらいながら指導にあたる。合宿の計画を明確にし、何をどうやらせ、何をつかむかを明確にして取り組まねば、何となく感覚だけで指導していても、成果は得られなくなるように感じます。そのために教え込むミーティングを行い、まずは心を入れ、頭に入れてからトレーニングにはいることでより多くの成果が得られてきます。そして何よりも土台となる心の部分、勝負のかかったときに力を発揮できる力は、自分自身をコントロールできる心があってこそできるものであり、体力、技術だけあっても発揮できず終わってしまうものです。その心づくりは、普段の練習は勿論、生活の中で形成されるものであります。24時間の中で練習を行うのはわずか数時間、その練習だけに重きをおいても心は育ちません。残りの20時間をどのように考え使うかによって、育っていくものであるように考えます。そしてまずはリズムを整える、毎日一定の生活をおこなう。それが基本。その中

で自分のやると決めたことを必ずやりきる。自分のため、仲間のため、チームのため、クラスのためいろいろとあるが、自己決定をさせ、毎日チェックをしていく。クリアされればその中身をより高めていく。その継続こそが心の本当の強さとなり、勝負強さを創り上げていくものであるように考えます。このような本当の強さを創り上げなくても勝ってしまう選手もいます。しかしその選手が毎年のように安定感のある成績を残すことができるであろうか?おそらく無理であるように思います。「本当の強さ、人間づくり」を私たちが前提とした根本的な指導を行うことが、今後、岐阜県、日本を背負っていける立派な人間として成長させることになります。私たちの意識次第のように思います。

このような心の土台をつければ、当然と必要となる体力強化のトレーニングを考え、継続して力をつけていくことができるようになります。また自己の管理能力も高まり、けがなどもしない身体作りも心がけることができるようになります。この指導も必要であり、当然指導者が理解をしていなければいけない。怪我をさせてしまうのも、指導の見切れていない部分でもあるように感じます。そして最後にくるのが、技術指導です。より専門的なより効率化の測ったレベルの高い指導が必要です。しかし土台があってこそその高いレベルの指導が入るのであり、勝負のかかった時にその技術指導が有効になり、改善ができてきます。

成功者の理論にはすべての共通点があります。それはすべてが心づくりの根底をしっかりとしているからです。これは特に、成功を収めている企業が、行っている方法であり、当然学校経営、学級経営、部活経営にも同じであるということを今までの実践の中で証明をしてきました。私の指導法でもこの考えを10年前から取り入れ、毎年進化させることにより、全国で戦えるチームを毎年のように出すことができました。中学強化部でも2年前から、具体的なこの方法論を取り入れ、取り組んできました。その実績もあがってきました。まだまだ進化をさせていかねばなりません。指導者の意識レベルを上げる。多くを変えていかねばならないように思います。「どうせやるなら日本1」をもち、お互いが幸せな気持ちを持てることを求めていく必要があるように思います。今後もご指導よろしくお願いいたします。

(委員長 森 光弘)

普及委員会

今年度の小中学生の全国大会の結果は、全国中学生総合体育大会において、8つ入賞(うち1種目が優勝)、ジュニアオリンピックにおいても8つの入賞(うち3種目が優勝)。全国小学生クロスカントリーリレー研修大会において、清流ランニングクラブが過去最高の9位と区間賞を受賞する結果を収めることができました。

成果の要因の一つとして考えられるのは、小・中学生の全国大会出場および入賞を目標とした選手を対象とした合宿や練習会を、計画的に継続して行うことができたからだと思います。その中では、技術の向上だけではなく、日常生活と結びつけた心の指導の充実も図ってきました。

また、地区ごとにも練習会や陸上教室や記録会を開催してきました。その中で、より多くの小中学生に、より速く走ったり、より遠くに跳んだり、投げたりする楽しさを広めつつ、初心者から上級者まで競技レベルに応じた練習、種目ごとに技術力向上を目指した専門練習を行ってきました。そして、練習の成果を発揮できる場として、多くの陸上競技大会を開催してきました。

来年度も今年度同様に、陸上競技に触れ合うことのできる場を一つでも多く計画し運営をしていきたいと考えています。そして、優秀な選手のさらなる競技力向上に努めていきたいと思っています。

同時に優秀な選手を育てていく指導者の育成および研修会も充実させていきたいと思っています。

そして将来、この中から日本、世界のトップアスリートが生まれてくることにつながっていくことを期待しています。

(委員長 久川 直之)

駅伝・道路競技委員会

平成27年度総括

第7回ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会は、21市、3郡市、郡選抜1の25チームで競い、高山市が圧倒的な強さで二連覇を果たしました。第2位は下呂市、第3位は土岐市、第4位は岐阜市、第5位は多治見市、第6位は大垣市でした。

大会の盛り上げという事で、都ホテルでの開会式、選手間の友好交流のレセプションがあり、スタート地点(県庁前広場)でのイベント(清流の国ぎふ屋台村・レクリエーション体験コーナー・ぎふ清流グランドゴルフ・ゴルフ体験会)が開催され、大会は成功裏に終了しました。

ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会が継続していくための課題等

- 1.岐阜県等との連携を密にし、大会実施上での一番の課題である道路使用での県警及び所轄署との協議。
- 2.かなりの大会経費を要するの為、予算(特に協賛金)の確保。
- 3.県内すべての方面からの支援と理解を得ることが必要。



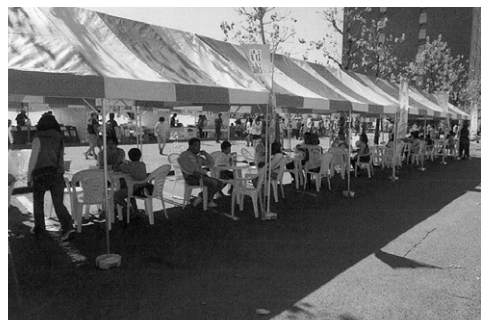
ぎふ清流郡市対抗駅伝競走大会



スタート風景



選手テント



清流の国屋台村 休憩所

最後に

駅伝・道路委員会は各地区で実施されている駅伝・ロードレース大会等シーズン前に問題点等の意見交換会を開催しています。委員は積極的に出席し、貴重な意見を提案しています。

(委員長 馬場 保)

記録・情報処理委員会

〈平成27年度総括〉

今年度は新体制で臨んだ最初の年でしたが、全日本実業団、全日本マスターズと全国大会が2つもあり、どうなることかと不安もありました。昨年の全日本実業団、全日本マスターズ兼アジアマスターズへ視察に行かせていただいた際、競技運営にも参加させていただいたおかげで、簡易マニュアルの作成や審判員への事前研修をすることができ、何とかが乗り切ることができました。全国大会規模の運営を大きなトラブルなく経験できたことは私だけでなく記録・情報処理に関わるメンバーの自信につながったと思います。ご協力いただいた皆さん、本当によくがんばってくれました。この場を借りて心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

〈平成27年度活動報告〉

また、今年度は情報機器を活用し、より効率的な競技会運営を目指しました。我々、審判員のほとんどは本職がありながら余暇の時間を使い審判業務に取り組んでいます。全国大会など大規模大会であれば平日でも

本職の休みをとって出席し、シーズンに入れば休日の大半を審判業務に充てる生活を送っている方もいます。記録・情報処理委員会でも競技会運営以外に岐阜県以外で活躍した岐阜県登録者や岐阜県出身者の記録の収集・保存やランキング作成等、必要があれば集まったり、自宅で作業したりと忙しい日々です。そんな一生懸命な審判員に少しでも休んでもらおうと試行錯誤し、パソコンでできることはパソコンに任せたことで昨年度よりも作業効率が上がリ、競技会中に競技運営とそれ以外の作業を分担することにより、競技会以外で集まる回数も減らすことができました。来年度は空いた時間を記録のチェックや、ルールに関する知識を深める時間に充てることで審判員を育成し、より効率的で質の高い競技会運営ができればと考えています。

〈来年度の予定〉

過去の記録資料のデータ化を進めたいと思います。紙の資料が残っていますが、過去の印刷技術では字が読み取れないものも出てきています。岐阜陸協70年の財産の1つである過去の記録が失われることは大きな損失です。いろんな方の思い出が詰まった記録を保存することは記録・情報処理委員会にとって急務です。当時を知る先輩方にご指導を賜りながら、しっかりと後世に伝えるべく引継ぎをしていきたいと思います。今ならまだ間に合います。皆さんにもご協力いただくこともあるかと思いますが、快く引き受けていただければ幸いです。

また来年度も引き続き、ご協力よろしくお願いします。

(委員長 山下 和行)

施設用器具委員会

平成27年度としては次の5か所の検定を行いました。

- 1.ぎふ清流ハーフマラソン(継続)5月17日大会当日検定
(公認番号9052)
- 2.各務原市総合陸上競技場(新規)7月9日、7月10日検定
(公認番号9071)
- 3.岐阜メモリアルセンター長良川競技場(継続)
8月1日、8月2日検定(公認番号9081)
- 4.ぎふ清流ハーフマラソン(一部変更)12月17日検定
(公認番号9052)
- 5.岐阜メモリアルセンター長良川補助競技場(継続)
2月14日検定(公認番号9155)

今年度は岐阜陸協上競技協会としても重要な検定が集中しました。中でも、IAAF/AIMS公認である、ぎふ清流ハーフマラソンについては大会当日検定という県内では初めての試みとなり、交通規制後から先頭のランナーが通過する前の限られた時間に各ポイントを自転車にて計測する方法で検定を行いました。事前の念入りな打ち合わせやシミュレーションにより大きな問題もなく終了することができました。

また、道路工事による一部変更の検定も完了し、各ポイントの位置変更を行いました。

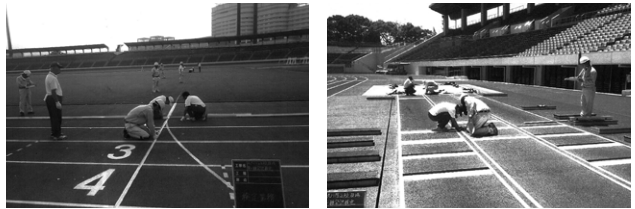
各務原市総合陸上競技場については、県内初のブルーの走路で新規に建設されました。河川法の制限により4種ではありますが、公認大会を開催することが可能な施設となりました。

岐阜メモリアルセンター長良川競技場及び補助競技場については県内のメイン会場として重要な施設であり使用頻度も多いですが、特に問題もなく無事検定が終了しました。

以上の検定が終了し、今年度はすべての施設について日本陸連から合格を頂きました。これも審判員の方々、選手、関係者の皆様の協力、施設や用器具等を大切に使用して頂いたお陰だと思います。ありがとうございます。

ました。

平成28年度も引き続き検定業務には、全国区域技術役員(任期2年間)として松田哲明、堀一智が委嘱されることとなりましたのでよろしくお願い致します。



(委員長 松田 哲明)

女性委員会

女性委員会の主な活動は託児室の開設です。小さいお子さんがいて、審判依頼があってもなかなか出席できないのではないかとということで始めました。27年度は全国大会の全日本実業団、全日本マスターズを含め6競技会12回を開室しました。すべての日に託児依頼があり、託児室の需要があると感じました。のべ人数にして男児21人、女児15人のお子さんを預かりました。有資格者の保育士さん、学生ボランティアの皆さんが、とても上手に子どもたちに対応していただけたので、子どもたちも安心して楽しく過ごすことができました。保護者の方も審判の空き時間に子どもさんの様子を見に来られても安心して再度審判に行かれました。当初は女性審判員のお子さんを念頭においていましたが、男性審判員からの依頼もあり、皆さんのお役に立てればと受け付けています。お父さんと一緒に出かける良い機会ではないでしょうか。

今後は審判員のお子さんだけでなく、岐阜県登録で競技会参加選手からの依頼にも対応していきたいと考えています。小さいお子さんがいて競技会から離れているという方も多くみえると思いますが、親子共々陸上競技を楽しむつもりで参加していただけたらいいのではないかと思います。ぜひ、託児室を覗いてみてください。

今、女性審判員が少ないのが現状です。陸上競技に興味がある女性が多く参加できるような方法がないかと考えています。そのひとつの活動が託児室の開設です。また皆さんのご意見を取り入れていきたいとも考えています。まずは競技場に来てください。

託児室利用者の声

託児室開設以来、利用しています。初めの頃は、娘も泣いていましたが、すぐに慣れ、友だちもでき、楽しく過ごしているようです。帰り道には保育士さんたちと公園へ出かけたことや、みんなと遊んだりしたこともよく話してくれます。また、私の審判の姿を見かけると嬉しそうに「私のママだよ」と保育士さんたちに話しているそうです。審判のシフトも配慮していただけており、微力ながらお役に立てればと思っています。



(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

平成27年度から活動を開始した本委員会は、組織としてまだまだ未完成ですが、何とかシーズンを終えることが出来ました。これも、関係各位のご理解とご協力の賜物と感謝しております。

今年度は、競技会へのドクター・看護師派遣と競技会におけるトレーナールーム開設が主な活動でした。特に、7月の岐阜県陸上競技選手権大会、9月の第63回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会、10月の第36回全日本マスターズ陸上競技選手権大会においては、岐阜県鍼灸マッサージ師会とも連携しトレーナー活動を行いました。多くの貴重な経験ができましたが、運営協力などで課題も生まれました。又、平成28年3月5日の審判講習会の折には、医事委員会(トレーナー)の活動報告を行い、競技会でのトレーナー活動について理解を深めました。

設立して1年の出発したばかりの組織です。医事委員会の予算確保・トレーナーの活動報酬や人員確保など、課題も多くありますが、岐阜陸上競技協会のため、陸上競技選手のために活動していきたいと考えておりますので、さらなるご支援とご協力をよろしくお願い致します。

(委員長 河島 正弘)

・中体連・高体連・学連…年度総括又は活動報告
・マ ス タ ー ズ…全国大会開催総括・報告等
・実 業 団…日本実業団選手権総括・報告

(2)原稿

・字数…A4用紙1枚を目途とする。
・写真・表の添付

(3)日程(予定)

①原稿依頼発送(郵送) 1月18日～24日
②原稿締め切り 2月18日
③原稿校正I
④入稿 2月下旬
⑤校正II
⑥広報上り・発送準備
⑦発送・配布 4月初・中旬

第3号広報誌発刊へ向けて

※70周年記念事業案内・28年事業計画を中心

※7月開催の記念事業に合わせて発刊予定

(委員長 木下 克己)

広報委員会

1.活動報告

主な広報誌創刊号準備作業関係について

4月20日(月) 地区陸協広報担当者選出依頼発送
5月 2日(土) 地区広報担当者決定
6月15日(月) 広報委員会準備作業・広報委員会組織・活動計画案作業
7月 5日(日) 広報事務局打合せ(雪印ビュッフェ・17:00～)
7月10日(金) 原稿依頼発送
8月19日(水) 岐阜プリント打合せ(岐阜プリント・10:00～)
8月26日(水) 編集・原稿校正作業(雪印ビュッフェ・19:00～)
8月31日(月) 岐阜プリントへ入稿
9月 5日(土) 初稿編集・校正作業(雪印ビュッフェ・19:00～)
9月 7日(月) 岐阜プリント入稿
9月11日(金) 二次稿上り・(月)校正作業・広報発送依頼打合せ
9月14日(月) 広報発送依頼打合せ(陸協事務所・河島さん)
9月18日(金) 広報誌上り・挨拶文作成完了
9月24日(木) 発送準備作業(雪印ビュッフェ・19:00～)
9月25日(金) 郵送分発送・役員配布準備
(全日本実業団選手権大会にて)
9月26日(土) 一般会員配布(全日本実業団選手権大会にて)
10月10日(土) 創刊号発刊反省会(サムシング・19:00～)

創刊号発刊内容(発刊部数 500部)

県内(郵送136・一般会員手渡し272・予備20)

①県陸協役員(73) ②地区体協(6)
③県体協・郡市体協(31) ④県関係・スポーツ課・県高体連・警察関係その他(26) ⑤一般会員(272)

県外(72)※郵送

①日本陸連・高体連その他(9) ②都道府県陸協(46)
③新聞社・放送局・関係企業その他(17)

2.活動予定

第2号広報誌発刊へ向けて ※年度総括を中心

(1)内容について(予定)

70周年記念へ向けての準備報告と各委員会の活動総括
・会長・専務理事…70周年記念へ向けてと年度総括
・各専門委員会…年度総括又は活動報告
・各 地 区 陸 協…年度総括又は活動報告

各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

平成27年度岐阜地区陸上競技協会事業報告

1.主催・主管協議会

(1)平成27年8月30日(日)
岐阜地区陸上記録会兼
ジュニア地区対抗岐阜地区予選会(於 長良川競技場)
岐阜地区記録会参加者の内訳
一般・高校 238名 競技審判員 87名
中 学 生 335名 競技補助員 72名
小 学 生 283名
合 計 856名

2.運営協力

5月2日(土)・3日(日)
高校総体岐阜地区予選(於 長良川競技場)
6月13日(土)
岐阜地区中学総体陸上地区予選(於 長良川競技場)
10月12日(月)
岐阜地区高等学校総合体育大会(於 長良川競技場)
10月17日(土)
岐阜地区中学駅伝大会地区予選会(於 香の森公園)

3.会議

第1回理事会 平成27年6月21日(日)(於 長良川スポーツプラザ)
常務理事会 平成27年11月14日(土)(於 長良川競技場)
第2回理事会 平成28年3月20日(日)(於 長良川スポーツプラザ)

4.岐阜陸上競技協会27年度功労賞候補推薦について

岐阜教員クラブ 内田匡俊氏
岐阜教員クラブ 加藤英樹氏
岐阜アスリート 辻 治彦氏
らいちょうT&F 筒井 学氏
岐阜教員クラブ 河島正弘氏
若 鮎 ク ラ ブ 若園 毅氏

岐阜教員クラブ 市橋達朗氏
チームミズノア 平岩 徹氏
若 鮎 クラブ 左高英希氏
の10名を岐阜県地区陸上競技協会の候補者として推薦しました。
平成28年3月5日岐阜陸上競技協会栄賞表彰において、
内田匡俊氏・羅等英樹氏・辻治彦氏・筒井学氏の4名が表彰されました。

5.第21回岐阜県ジュニア地区対抗陸上競技大会の結果

男女総合	339.5点	第3位
男 子	169.0点	第3位
女 子	170.5点	第2位

(理事長 小森 博昭)

東濃地区陸上競技協会

「存続の危機を何度も乗り越えて継続されている中山道東濃駅伝」

前号の主な競技会の紹介で触れたが、今回、各地で駅伝競走大会が中止されていくなかで第63回を迎えようとする伝統の大会についての取り組みを紹介します。

1.駅伝の歴史

第1回大会は戦後間もない昭和22年に中津川市スタート、多治見市ゴールで開催されています。その後、昭和25年、26年の2年間中止されていますが、その理由は不明です。

交通事情が厳しくなってきた頃、昭和45年から6年間の中断があり、存続の最大の危機を迎えました。この時、復活に向けての最大の功労者は、故大角敏男氏です。コースの検討、警察署との連携など、多くの課題をクリアし、昭和51年の第23回大会は恵那市からのスタートとし、距離を短縮して実施にこぎつけました。

この後、参加対象部門の新設や参加範囲の拡大などを実施して、第30回大会では100チームを越す参加がありました。60回大会からは、名岐駅伝が廃止となった関係で岐阜県駅伝競走選手権大会を兼ねる大会となりました。

大会の名称は「東濃駅伝」から「中山道東濃駅伝」、そして「中山道駅伝」となり、第46回大会から再び「中山道東濃駅伝」となって現在に至っています。

2.取り組みの特色

- (1)主催 東濃地区陸上競技協会・中日新聞社
- (2)企画・運営組織 中山道東濃駅伝実行委員会

この実行委員会のメンバーは、駅伝委員長がチーフとなり、東濃陸協役員及び中日新聞多治見支局長をはじめ、中日会東濃支部役員と各地域の販売店代表も含まれています。大会開催までの実行委員会では、各部門での課題提案、進捗状況報告、確認事項を主として会議の効率化に努めています。

- (3)中日新聞社・中日会東濃支部の絶大な支援・協力

中日新聞社及び中日会東濃支部から財政面で大きな支援を頂いています。また、東濃全域の販売店が各地域で大会実施までの準備、当日の大会運営、終了後の後片付けにと、献身的な協力をいただいています。

- (4)警察署との綿密な打ち合わせ

駅伝のコースで関係する、中津川警察署、恵那警察署、多治見警察署との打ち合わせを各市で細部について実施し、

大会1か月前頃には三署合同での打ち合わせ会を持ち、最終確認としています。

- (5)大会当日には次のような多くの方に支援していただき運営しています。

- ①各市交通安全協会員が分担し、誘導・監察として交差点に合計234名を配置
- ②東濃地区の大垣共立銀行の協力で、役員補助として合計71名を配置
- ③東濃地区の各高校から、スタート、ゴール、中継所の補助員として合計77名を配置

- (6)販売店が事前に、あるいは当日応援用の小旗を配布して、山間の旧道でも小旗を振って応援してくださる姿が選手にとって大きな励みとなっています。

- (7)大会終了後、警察署三署からも出席していただき、反省会を実施し、次回に向けての課題を明確にしています。

こうした警察の理解と協力・指導があり、多くの方の善意に支えられて、今まで大きな事故なく62回の駅伝競走を実施してきた。これからも継続できるよう、各方面との連携を密にして努力していきたいと考えています。



中日新聞 多治見支局 提供



(理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

西濃地区陸上競技協会は、青少年の健全育成・体力向上と陸上競技の普及・強化を目的に戦後間もなく発足しました。

昭和30年には大晦日の夜、除夜の鐘を聞きながら大垣市の中心街を駆ける「越年マラソン」が始まりました。

当時は市中心部といえども街灯が少なく、現在ほど明るくなかったのでスタッフは松明を灯して走路の安全を確保したそうです。

その後「元旦マラソン」「新年マラソン」と変遷を重ね、平成20年からは「城下町おおがき新春マラソン」と銘打ち、開催日も1月3日に変更して中心市街地活性化にも貢献できる大会に舵を切りました。

行政や商工会議所、観光協会、地元商店街と連携し、おもてなしの心や著名なゲストランナーを招待して、にぎわいの創出をはかった結果、今年の参加者は地元を中心に遠くは北海道や中国・四国地方にまで及び、4000人を超えるランナーが集うまでになり、大垣のお正月の風物詩としてしっかりと定着しました。

中心市街地という限られた区域内に10キロコースを設けるためには、コースを3周する必要があり、参加者が増えたと危険性も指摘されるようになりました。

このため、8回続いた「新春マラソン」は今年1月3日をラストランとして、発展的解消をはかることにしました。

先人のご尽力により60年間続いてきた伝統を守るべく、新しい実行委員会を立ち上げ、本年12月11日に大垣城と墨俣一夜城を結ぶ新たなハーフマラソン大会の開催を予定しています。県内のみならず県外からも大勢のランナーのご参加をお待ちしております。



(理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

活動総括

今年度に計画した競技大会は好天にも恵まれて順調に終えることができました。美濃地区と可茂地区の合同記録会を夏と秋に開催でき、それぞれの競技力を高めることができました。

また、可茂地区が担当となった県民スポーツ大会も美濃地区の協力を得て中池公園陸上競技場で無事に開催できました。

小学生、中学生を対象とした普及事業を開催して選手の育成および指導者の養成が出来ました。今後、より一層の選手強化をしていきたいと思ひます。

活動報告

1.審判講習会実施

27年6月15日に協田審判長のご指導を得て審判伝達講習会を開催しました。本年度改定されたルールについての講義と、前年度の大会で問題となった判定等について対処方法等の説明を受け、今後審判員としてどのように対応するべきかの講義を受けました。また、講習会の終了後、美濃地区の年度総会を開催し27年度事業計画を承認しました。

2.中濃地区陸上競技会開催

27年6月29日に中濃地区陸上競技大会(美濃地区3市対抗)を開催するとともに、中濃地区の一般、小学生、中学生、高校生を対象に記録会を開催し、競技選手の底辺拡大と全国レベルの競技技術を見ることにより地域のレベルアップを図りました。

3.ナイター競技会開催

27年7月25日と8月29日に中濃地区の選手の外他県の選手も参加したナイター記録会を開催しました。昼間に比べ気温の下がった中での記録会は、夏場の練習に大変良いと好評で200数名の選手に参加いただきました。

4.記録会開催

9月から10月にかけてジュニアを対象にして、11月の県ジュニア大会の予選会と清流駅伝の練習を兼ねて記録会を開催し、県ジュニア大会では数名の入賞者を出すことができました。

また、清流駅伝大会では地域の各市が昨年を上回る成績を上げることができました。

5.中濃駅伝大会開催

28年2月7日に第30回中濃駅伝大会を中池公園周回コースで好天の下、中学生、高校生、一般から38チームの参加を得て開催しました。昨今の交通事情のため公道を走ることができず少し残念でしたが、各チームとも接戦のレースを繰り広げ、大変盛り上がった大会となりました。

今後の課題

当地区には競技審判員が少ないため大会を多く開催することができず、選手の競技力を向上させることができておりません。また、中池公園陸上競技場の管理棟改修工事も2,3年後のため県レベルの競技会が開催できません。今後はより一層の競技審判員の増員確保と陸上選手の底辺拡大に努力したいと思っています。

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

【平成27年度に向けての準備】

- 1月10日(土)
部長・副部長会議
●平成27年度競技日程、各部の運営計画検討・立案

- 1月25日(日)
第4回:理事会 懇親会
●部長・副部長会での決定事項について審議・決定

- 3月19日(土)
飛騨地区陸上競技協会代議員会(高山市、飛騨市、下呂市)
●理事会決定事項の伝達・審議・決定

【活動報告】※各競技会に向けてのプログラム編成会議(約2週間前)

月	期日	曜日	大会・競技会名	会場
5	3~4	日・月	第38回:飛騨春季記録会兼県高校総体飛騨地区予選会	中山陸上競技場
6	7・14	日・日	各地区の陸上競技大会(高山市、飛騨市、下呂市)	各地区の会場
	20	土	第44回:飛騨地区中学総体陸上競技大会	中山陸上競技場
	27~28	土・日	第53回:東海地区国立高等専門学校体育大会	中山陸上競技場
7	11	土	第65回:飛騨地区高校総体陸上競技大会	中山陸上競技場
	12	日	第63回:飛騨地区体育大会陸上競技大会 第21回:飛騨地区スポーツ少年団交流会	中山陸上競技場
	29	土	県ジュニア地区対抗陸上競技大会選考会(小学生の部)	中山陸上競技場
8	30	日	第47回:飛騨選手権大会	中山陸上競技場
10	3	土	飛騨御嶽ハーフマラソン大会	飛騨御嶽高原
	4	日	第64回男子・第32回女子:飛騨地区高校駅伝競走大会	古川町森林公園
	12	月	第37回:飛騨秋季記録会	中山陸上競技場
	17	土	第23回:飛騨地区中学駅伝競走大会	中山陸上競技場
11	1	日	第40回:ひだ金山清流マラソン大会	下呂市金山町
	15	日	第52回:飛騨駅伝競走大会	小坂町~下呂少々野
			※ 各地区における駅伝競走大会、マラソン大会等	各地区の会場

【地区としての特筆事項】

- ①「飛騨御嶽ハーフマラソン大会」が実施され、来年度「第2回」を実施する見通しができました。
- ②「第7回:ぎふ清流都市対抗陸上駅伝競走大会」において、高山市が優勝、下呂市が2位、飛騨市が9位という好成績を収めることができました。
- ③「第21回:岐阜県ジュニア地区対抗陸上競技大会」において、総合優勝(男女ともに優勝)することができました。学校・地区・年代という垣根を越えて実施してきた合同練習会や強化練習会の成果が表れたものと捉えています。この大会が、本年度で“発展的解消”ということになったことは残念ではあるが、この大会の最後に優勝できたことに大きな意義があったと思っています。
- ④来年度、飛騨地区陸上競技協会が“50周年”を迎えるということで、編集委員会を中心として記念誌の発行に向けて準備を進めてきました。平成28年5月3日(火)に、中山陸上競技場において記念式典を実施することになっています。

(理事長 新屋 幹男)

関係団体(協力団体)

中体連の取り組みを終えて(全中総括)

はじめに

平成27年度においても、中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」「全国中学校駅伝競走大会」の3つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて、強化選手を毎年、選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、『心』『技』『体』『生活』『仲間』を大切にしてい取り組んできました。

全中、日本一1、8位以内8

今年度の北海道全中では、過去最多の43名の選手が全国大会参加標準記録を突破して、岐阜県選手団として出場することができました。結果は、美濃加茂東の安達楓恋さんの100mH日本一を筆頭に、「日本一1つ、全国大会8位以内の入賞8つ」の成果を残すことができました。

ジュニアオリンピック、日本一3、8位以内8

ジュニアオリンピックでは、41名の選手が出場することができました。結果は、美濃加茂東の安達楓恋さんの2年100mH日本一、美濃加茂西中の井戸七ツバキ風果さんの2年100m日本一、森澤翔樹くんの2年110mH日本一という3つの日本一を同時に獲得することができました。一度に複数(3つ)の日本一を出したことは、岐阜県としても初めての快挙となりました。全体としても、「日本一3つ、全国大会8位以内の入賞8つ」の成果を残すことができました。

全国中学校駅伝競走大会、男子・中山中、女子・日枝中出場

全国中学校駅伝競走大会においては、男子中山中学校が2年連続3回目、女子日枝中学校が初出場となりました。県大会においても、飛騨勢の活躍が目覚ましく、飛騨地区の学校が全校体制で力を入れているのが分かりました。男子の中山中は、県大会を大会新記録で制して、期待された全国大会でしたが、21位に終わりました。また、女子の日枝中は、初出場の中、42位という結果になりました。駅伝においては、県全体として、中長距離の選手育成が求められます。全中出場選手が他県と比較しても弱い点、今後の中長距離の選手強化が早急に必要なのが課題として出ました。

総括

全体を総括すると、全国大会において、日本一を含めた活躍をすることができるようになったのも、中学強化部として、合宿や練習会を通じて、日頃の各学校での取り組みと、強化練習会や合宿等で学んだことが上手く結びついて出た結果なのではないかと考えています。

1.中体連の取り組みについて

(1)強化選手の育成・強化

次年度には、最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の規準として、「岐阜県強化選手」として選考しています。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができるだけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っています。

また、技術面だけの指導ではなく、「全国大会」という舞台でいかに力を発揮できるかを考えたとき、『心』の面の指導を欠かすことは

できません。全国大会という場においても、通常の大会と変わらず、戦えるようにメンタル面での指導も入れながら力を入れております。練習会の始めには、必ず「心」の面の指導を必ず入れて、メンタルを鍛えています。そこで大切にしていることは、目標設定用紙に「書く」ということです。書くことで具体的な姿が見えてきて、練習にも意欲的に取り組めるようになって考えています。

今年度は、例年行っている東海ブロック合宿の幅を広げ、北陸ブロックも合同で、2月に実施しました。岐阜県という枠での強化練習ではなく、他県の強化選手と一緒に練習する機会を得たことは非常に大きな経験となりました。この先ライバルになる選手と練習したことで、目標とする全国大会がはっきりとイメージすることができたのではないかと思います。今後も他県との交流を積極的に図っていくことが求められます。

(2)次年度の全国大会の会場で練習

全国大会では、岐阜県以外の競技場では、初めての場所での大会となるため、まずは全国大会の会場を知り、そこで練習することが大切であると考え、3月には「来年度の全国大会の会場」で合宿をしています。自分が数ヵ月後に、この会場で勝負するという気持ちを持たせるためにも、とてもよい取組だと考え、毎年実施しております。会場の雰囲気やトイレの場所、アップの場所など、直接見ることができることで、安心して本番の大会にも向かうことができます。

平成27年度は、来年度の全中会場となる「長野県松本」で3月20日、21日の1泊2日で強化合宿を予定しています。自分自身の最高のパフォーマンスを最大限発揮するために、本番会場で現地を下見することは、今後の練習へのモチベーションも上がるため、さまざまな効果があると考えています。

(3)さまざまな練習会を設定して取り組む

県強化スタッフだけの指導に留まらず、県外の優秀な指導者に指導していただく場も入れております。長距離では、来年度からの全国中学校駅伝競走大会の会場となる滋賀県に行きました。オープンレースでの参加となりましたが、会場周辺を走る大会にも参加させていただきました。コースは若干違いましたが、来年度、この場所に自分たちが来るのだという高い意識を持つことができた練習会となりました。

レベルの高い選手との練習や優秀な指導者の考えを学ぶことで、選手だけでなく、指導者のレベルアップも図ることができます。今年度は、強化スタッフが他県の強化練習会に参加したり、他県の駅伝強豪校と練習させてもらったり、岐阜県内の強豪校と合同練習をしたりと、強化を飛び越えて、さまざまな機会を設けて練習に意欲的に取り組む姿が見られました。

また、長距離以外の選手は、東海と北陸との合同での合宿にも参加して力をつけてきました。東海大会で戦うメンバー、全国大会で戦うメンバーと一緒に練習することで、東海大会や全国大会でも顔を知っている選手と戦えることは大きなプラスとなりました。同じ東海ブロックの選手と直接、練習することでライバル意識も高まり、日々の練習にも意欲的に取り組めるようになっていきます。

2.今後の指導の重点

交流・合同練習会による学び

県強化スタッフを中心に、強化練習会や強化合宿を定期的に行っています。

今年度は、県内における強化練習会、強化合宿だけでなく、県内においても強豪校同士の合同練習など、今まで以上にさらに強

化をしようと、お互いのよいところを学ぼうとする姿が見られました。特に、坂本中学校と日枝中学校と一緒に練習することで、お互いのレベルアップにもつながったのだと思います。

また、県強化スタッフにおいても、東海・北陸ブロック合宿において、他県の優秀な指導者から学ぶことができ、指導力の向上にもつながりました。指導において疑問に感じるところも含めて、お互いに交流することができたこともプラスになりました。

県強化スタッフにおいては、他県へ飛び出し、学ぼうとする姿も見られました。駅伝強豪校である隣の長野県川中島中学校に視察に行ったり、全国駅伝で優勝している学校が暮る千葉県の合宿に参加したりと、指導力アップを図ろうとする意欲的な姿も見られました。

今後の重点として、県内レベルの取組だけでなく、他県から学ぶ姿勢を強化することも必要となってきます。強化フタツ同士の指導の交流や、強化スタッフによる地域の学校への指導も含めた県全体としての取組も大切となってきます。枠にとらわれることなく、今後も選手育成のために必要だと思うことを積極的に取り入れていきたいと考えています。

全国大会で力を発揮するために

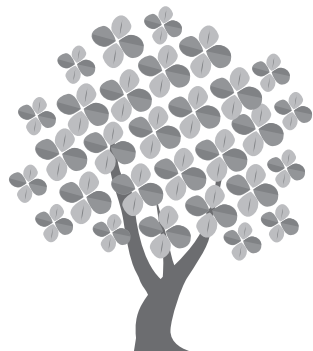
強化選手を選考する際にも、最低でも全国大会参加標準記録を突破することが一つの条件として選考しております。しかし、今年度も岐阜県最多の43名の選手が全国大会に参加したものの、全国大会という場で思うように力を発揮できずに終わってしまう選手がたくさんいます。

課題としては、全国大会参加標準記録の突破がかかる「県通信大会」「県大会」が大きな目標となり、そこで一度、ピークが来てしまい、その後、思うように力を発揮できないということが生じています。あくまでも、全国大会に出場することが目標ではなく、全国大会8位入賞を目標にして、指導していく必要があります。

また、全国大会では、長距離ではペースが一定ではなく、ラスト勝負の予選があったり、跳躍ではスタート時の高さがいつも以上に高いために跳べなかったりといった状況が生じております。そういう場にも適切に対応できる力をつけられるように、日々の練習においても、練習内容の工夫が求められます。

自分の学校だけというレベルではなく、強化スタッフは地域の強化育成も積極的に行いながら、指導していく必要があります。合同練習を通して、レベルアップを図り、練習から互いに切磋琢磨する姿勢を出していくことで、勝負において競り負けない強さも身に付けられるのではないかと考えています。その際には、各学校の顧問と強化スタッフの連携が大切となります。強化練習会や強化合宿等に、各顧問の先生の参加を推進して、連携を図って取り組んでいくことが、今後の中学部の強化において大切になると考えています。

(岐阜県中体連陸上競技専門委員長 吉田 靖)



平成27年度岐阜県高体連総括

高校総体報告

本年度、全国高校総体に岐阜県勢は男女合わせて25人が28種目に出場しました。東海総体の後、7月の県選手権大会で東海高校新記録をマークした男子110mHに出場する亀山裕二君(長良)や、ホクレンディスタンスチャレンジ北見大会で今季高校生最高をマークした男子1500mに出場する河村一輝君(大垣日大)など、出場者ランキング16位以内の選手8人を擁しての参加でした。結果は男子1500m河村一輝(大垣日大)3位・男子八種競技西尾拓巳(中津商)5位・女子100m新木詩乃(長良)4位・女子やり投中田寛乃(吉城)5位の、4人が入賞する健闘を見せました。選手強化の成果が表れたといえます。

ジュニア強化の成功

ところでこの大会では、直前にコロンビアのカリで行われた世界ユース大会で100m・200mに大会新記録で優勝したサニブラウン・アブデル・ハキーム君が注目を集めました。彼を破る大嶋健太君の男子100mの優勝や、女子400mHで日本ジュニア新記録をマークし400m・4×400mRと合わせて三冠に輝いた石塚晴子さんなどの活躍は、日本陸連の2020東京オリンピックを見据えたダイヤモンドアスリートU19強化育成事業が成功していることの証となり、日本の高校生の競技力が世界レベルに達していることを示しました。

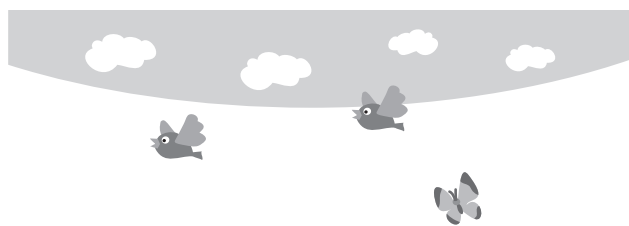
東海勢の活躍

また、愛知県女子の活躍や三重県の投擲選手の活躍が目についた大会でもありました。平成30年全国高校総体東海ブロック開催(陸上競技は三重県)に向けて両県の選手強化が確実に進んでいることを感じます。愛知県的女子選手には、岐阜県の中学校出身の選手が何人かいることは、うれしくもあり、悔しくもあります。

本県の取り組み

岐阜県も3年後のインターハイを地元開催ととらえ、さらに選手強化を進めるべきです。すでに競技力向上委員では、中高連携強化合宿やブロック別強化練習会など、新たな取り組みも始まっています。

(岐阜県高体連陸上競技専門委員長 内田 匡俊)



次号紹介

7月初旬発行予定です

編集委員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	土屋 雅敏
渡邊 宗治	坂谷 幸紀	